

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	SEKISUI チャレンジャーズ 代表 鍛次 茂
事業名	アメフトを通じたスポーツのまち尼崎の実現
事業所管課	教育委員会事務局スポーツ推進課
事業内容	フラッグフットボールの実施 武庫の里小学校の小学生を対象にフラッグフットボール教室を実施した ・周知&交流会(学校訪問) 11/1 ・体験会1回(11/13)、教室3回実施(12/4, 1/15, 2/19) 累計52人、26名の参加を得た

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A(よくできた)、B(まあまあできた)、C(あまりできなかった)、D(まったくできなかった)
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画(準備)段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他(契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問)		
(1) 互いにアイデアを出し合い、より良い事業実施ができたか	A	A

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	参加者のうち、アンケートで「スポーツが身近になった」「新たにスポーツを始めた」と回答した者の割合 (補足) ・多様なスポーツに触れる機会があること、世の中には様々なスポーツがあること(自分を活かせる道は多様であること)や、スポーツとの関わり方は色々あって良いことを実感できている状態。(プロだけが夢ではない。) ・本事業をきっかけに、これまで運動に積極的でなかった中学生が、日頃からスポーツに取り組むようになること。
	測定方法	参加者アンケート
	結果	教室に参加して、「スポーツが好きになった」者 10人/11人(90%) うち、・スポーツの得手不得手、好き嫌いが「普通」であった者 3人/11人 ・スポーツに興味「あまりない」と回答した者 1人/11人 ※詳細は別紙参照

3 総合評価

協働側面の評価

<成果>

①事業内容の変更に係る協議

当初、部活動地域移行も見据えて対象を中学生としていたが、部活動等で多忙なことなどから参加者確保が困難であった。事業周知の場として活用した「尼崎ボウル」(6月)では、小学生の参加が多かったことや、親子セットでの巻き込みも期待できること、特定の協力的な学校の目途が立ったことなどから、対象を小学生に変更して実施することとした。

異なる立場で意見を出し合うことによって、互いに冷静に事業内容の変更についての協議を行うことができた。

②実施にあたっての協働

「周知」「実施場所の確保・調整」「魅力的な教室づくり」「実施関連事務」などの各面で、互いの得意を出し合いながら企画や役割分担ができた。アイデアを出し合う中で、互いの長所等の理解につながった。

また、市は本来業務としてかわる一方、提案者は本業を行いながらの実施であり、提案者の繁忙期などには役割分担を超えて協力しながら実施することができた。

<課題>

良好な関係が属人的にならないよう、協働推進課とも連携しながら、組織同士のつながりづくりや関係性の強化を図っていく必要がある。

事業効果の評価

<成果>

①地域、学校の巻き込み

育友会も巻き込みながら実施でき、保護者への周知や学校との調整が円滑で、取組への信頼度も確保できた。

②参加者アンケート

計2回アンケートを徴取（1回目20名、2回目14名）し、両方に回答した11名について、状態変化の状況を確認した。スポーツがあまり好きではないと回答した児童が、教室を契機に好きになったとの回答が得られ、開催数は少ないながらも手ごたえを感じられる内容であった。

③広報

全国紙（地域版）、地方紙、地域の人権啓発広報誌において取り上げられた。

<課題>

①教室の内容

単発的でなく、継続的に行う前提の事業であり、児童に何をどこまで学んでもらうか、どうすれば学びが深まるかという視点から、競技面及びキャリア・多様性講座面ともに、目標設定のあり方や計画的・戦略的なカリキュラムの作成などを行う必要がある。

②自立した活動の実施に向けて

実施場所について、学校側の前向きな協力の下、学校運動施設を活用できた。アンケート結果からは、実施場所は学校が良い意見が多く引き続き利用したいところだが、学校に甘えてばかりではなく、自立して継続できるよう改善が必要である。

③実施体制・実施規模

提案者の体制上、頻度や実施校数は限られており、本事業を通じて達成したい目標とも照らしながら、今後の展開をよく検討する必要がある。提案者のメインスポンサーの変更や一般社団法人化の状況も踏まえながら協議検討を行う。

④地域との連携

当初計画の「地域との連携」については、検討過程において、あまがさきQ'sモールなど、他の主体の巻き込みの可能性もあったが、準備時間上の制約などもあった。今後は一層多様な主体や、地域団体も巻き込みながら、子どもの体力向上はもちろん、地域コミュニティの発展につながるような展開が必要である。

⑤自主財源の確保

持続可能な実施に向けて、財源の面では、今回500円/人/年について保護者からは低廉で参加しやすい旨の評価であった。内容の充実を図るとともに、増収に向けて検討したい。

総評

全体を通じて、市と提案者の双方が緊密に連携しながら進めることができた。常に目標や実施内容、課題等を互いに共有できたことは、突発的な事案への対処や、役割分担に縛られず事業を遂行することにつながった。

事業においては、互いに単独で実施するよりも質の高い事業につながったと考えており、学校を実施場所とする点において行政が果たした役割は大きく、また、魅力的な教室づくりという点では、チームの持つ人的資源を最大限に活用することができた。育友会や学校をしっかりと巻き込むことができたことも、実施者・児童・学校・保護者に一体感が出る上でのポイントであった。

一方で、実施内容には一層の工夫の余地があることや、地域全体を巻き込み、コミュニティの形成に資する事業となるといった点では改善の余地がある。

（参考）学校・保護者意見**＜学校意見＞****①よかったこと**

- ・子どもたちがプロ選手に直接関われるいい機会であった。
- ・子どもの遊び場に制限が増える中、とても良い機会であった。
- ・体育の学習につながる運動経験ができるという意味でも有意義であった。
- ・活動後の子どもの表情がとてもよかった。専門的な知見から指導を受けることができた。
- ・講話（多文化・キャリア）では、多様性理解や将来を見据えた考えなど、いい機会となっていた。

②取組の将来性

- ・生涯スポーツが求められる中、競技特性上、保護者や地域の大人、老人に広げていくことが可能で、将来的に地域の皆で楽しめるスポーツとなりうると感じた。
- ・地区に範囲を広げて活動をすることもでき、地区対抗戦など広がりのある活動も期待できる。
- ・今回の活動を知った地域事業者も関心を寄せており、事業者と連携して、地域を盛り上げるきっかけになるのでは。

③課題

- ・参加者の維持・増には広報が必要。月一回の頻度では忘れられてしまうのではとも思った。
- ・「学校はノータッチで」と始まったが、現状は学校の協力・理解も必要。配置される教員によっては協力体制を維持できなくなる可能性もあり、学校に頼らない体制や仕組みの構築が課題。
- ・飛び入り OK など、自由に参加できることは、管理が難しいことにもつながる。
- ・一旦帰宅せずに活動に参加できるのは子どもにとってメリットであったが、低学年の児童は 1 時間以上待つことになり、その間の居場所や安全管理が今後の課題。高学年の授業が体育館であると、そこで待つのは難しい。（運動場も同様）

＜保護者意見＞

- ・低廉な金額でプロに触れられる機会があるのは非常にありがたい。
- ・学校で実施するという点は、参加させやすく安心である。

（実施結果報告に対する審査会委員意見）

- ・実施事業が、どこの地域の小学校に、またはどのような小学生に効果があるのか。事業を行うにあたり生徒にどのような変化があったのかといったことがこの事業を広げていくに当たって重要となるのではないかな。
- ・協働事業の実施にあたって、目的目標を踏まえた実施手法を検討したうえで市のモデル事業としての意義（プロスポーツクラブが学校と関わることの意義など）を明確に実施いただきたい。例えば、小学校での横展開や地域での体験会等の工夫も必要ではないかな。

4

収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
市補助金	258,000	171,325		差額 86,675 円は精算・戻入
自主財源	278,000	13,000		参加料 500 円/人/年×26 名
		16,000		提案者持ち出し（人件費）
収入合計	536,000	200,325		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
		計	うち市補助金	
施設使用料(定例分)	9,000	0	0	別紙参照
施設使用料(試合分)	91,000	0	0	
広告宣伝費	66,000	28,874	28,874	
消耗品一式	107,000	95,131	95,131	
人件費	216,000	63,000	34,000	
保険料	0	13,320	13,320	
支出合計	489,000	200,325	171,325	補助額に対する人件費割合： 19.8%

※人件費算定

$$\text{物件費充当額} + \text{人件費充当額}(x) = \text{補助額}(y)$$

$$\text{人件費充当額}(x) = \text{補助額}(y) \times 0.2 \rightarrow y = x / 0.2$$

$$137,325 + x = x / 0.2, \quad x = 34,331.25 \div 34,000$$

収入の部			
科目	横算金額（単位：円）		内容及び算出根拠
	予算額	決算額	
尼崎市補助金	¥258,000	¥171,325	市民提案制度
自主財源	¥278,000	¥13,000	参加料500円/人/年×26名
自費	¥0	¥16,000	人件費補填分
収入合計	¥536,000	¥200,325	

収入の部						
科目	積算金額（単位：円）				支払日	内容及び算出根拠
	予算額	決算額				
		合計	小計	うち市補助金		
施設使用料（定例分）	¥9,000	¥0	¥0	¥0		
施設使用料（試合分）	¥91,000	¥0	¥0	¥0		
広告宣伝費	¥66,000	¥28,874	¥15,125	¥15,125	5/28	全校向け30,000枚 尼崎ポウルチラシ裏面活用 71,433(両面)-56,308(片面) (両面刷りと片面刷りの差額を負担)
			¥8,559	¥8,559	5/30	一般配布10,000枚 尼崎ポウルチラシ裏面活用 29,539(両面)-20,980(片面) (両面刷りと片面刷りの差額を負担)
			¥5,190	¥5,190	10/31	武庫の里小向けチラシ500枚
消耗品一式	¥107,000	¥95,131	¥2,480	¥2,480	1/10	救急キット
			¥34,875	¥34,875	10/1	ボール
			¥39,795	¥39,795	10/1	フラッグ
			¥6,202	¥6,202	10/1	空気入れ×2、マーカー
			¥11,779	¥11,779	10/1	収納箱
人件費	¥216,000	¥63,000	¥15,000	¥6,800	11/1	11月1日（朝礼・20分休み）5名×3,000円
			¥12,000	¥6,800	11/13	11月13日（体験会）4名×3,000円
			¥12,000	¥6,800	12/4	12月4日（第一回）4名×3,000円
			¥12,000	¥6,800	1/15	1月15日（第二回）4名×3,000円
			¥12,000	¥6,800	2/19	2月19日（第三回）4名×3,000円
保険料	¥0	¥13,320	¥3,330	¥3,330	11/10	レクリエーション保険（30名分）
			¥3,330	¥3,330	11/29	レクリエーション保険（30名分）
			¥3,330	¥3,330	1/11	レクリエーション保険（30名分）
			¥3,330	¥3,330	2/15	レクリエーション保険（30名分）
	¥489,000	¥200,325	¥200,325	¥171,325		補助金額に占める人件費割合：19.8%